

『夏、どんなときも自分らしく!』

北海道おといねっふ美術工芸高等学校長

伊藤良平



夏は太陽のエネルギーをたくさん浴びながら、暑くて自分に負けそうになりますが、自分らしく取り組むことが大切ではないでしょうか。

音威子府村の夏はとても暑く、短いです。学校から見える音威富士は、緑一色に染まり、樹木が整然と並び、美しい景色となっています。山の中の一本一本の木は種類が違い、大きさ、形、色も様々です。やがて、それぞれの木は私たちの生活に必要な大事な資源となります。

また、本校の生徒116名は、全員が寮での生活等を通して、基本的な生活習慣を身につけています。一人一人の生徒は将来の夢も違い、それぞれの進路も様々です。いつか、将来の日本を支え、社会に貢献する人となります。

確かに、何事も生活や社会に役に立つことは大切なことです。音威富士の景観や高校生の集団行動は、姿は違いますが、見る人を心地よい気持ちにさせてくれます。音威富士は山菜の恵みとともに、村の人の心をいやしてくれます。本校生徒の規律ある行動は、学校のエネルギーとなるとともに、村を元気にさせてくれます。しかし、木も人もそれぞれの成長に違いがあるにもかかわらず、世の中は「役に立つ」「役に立たない」等の結果だけを早く求める傾向があります。

先日、「理科の教科書が変わる」というニュースがありました。日本の科学者（チームリーダー 森田浩介氏）が発見した113番目の元素を「Nh ニホニウム」と名付けました。驚いたことに森田氏はインタビューの中で、現時点でこの発見は「日常生活で役に立たない」と言っていました。同様に以前、素粒子の分野でノーベル賞を受賞した小柴氏、梶田氏も当時の発見について、「今すぐには役に立たない」と明言しました。

「役に立たない」ことを発見したにもかかわらず、称賛される理由は、世界で初めて発見したことであり、私たちに夢や感動を与えてくれたことにあります。森田氏は9年間、自分を信じて、あきらめずに繰り返し実験を行ったそうです。大学の先生が子どものように微笑みを浮かべ、一見変わった人に見えるかもしれませんが、テレビで見ていた私たちを幸せな気持ちにさせてくれました。このことにより科学に興味を持つ子どもたちが増えるに違いありません。

「役に立たない」ことにも、大きな意味を持つことが世の中にはあると思います。夢を追いかける人を「変人」と呼ぶなら、子どもの頃はみんな「変人」です。若者は、夢をあきらめた「普通の人」ではなく、どんなときでも自分に負けない「変人」であるべきです。多様な116人の生徒がいれば、116通りの夢があります。

一本の木が成長し、家具などの材料になるには長い年月がかかるように、将来に向けて時間をかけて準備しておくことが大切です。

本校で美術工芸を学ぶ生徒たちは、真夏の太陽のように、「どんなときも自分らしく」輝いてほしいです。



音威富士（7月7日撮影）

学校だより

No.2

平成28年7月25日 発行



北海道高等学校PTA連合会の函館大会に参加して

北海道おといねっふ美術工芸高等学校PTA会長
志村正美

6月11日・12日、函館で行われた第66回PTA連合会大会に伊藤校長先生と共に参加させていただきました。

前日朝、9時過ぎに音威子府村の隣町的美深駅を出発し、ずっと汽車にゆられ函館のホテルに到着したのが午後4時半、函館に行くまでに疲れてしまったのとあらためて北海道の広さを実感しました。

初日は北海道PTA連合会大会が行われ、大会後の講演では、函館市出身の講師田辺鶴瑛（女性）さんによる、自ら経験した3回の介護を「介護講談」とし、「いやいや介護をしながら辛い思いを抱え込んでいる人々に肩の力を抜いてもっと楽にかまえて介護しましょうよ!」と言うメッセージを、講談独特のテンポにのせて面白くおもしろく語っていただきました。冗談の様に語っている中に、実は本質を付いている事が多々あり、非常に共感しながら楽しく聞かせてもらいました。

二日目は、40の分科会に分かれてそれぞれ学校代表として意見交換を行う場でした。私は「進路実現に向けてPTAとして何ができるか?」と言う分科会に参加させていただきました。それぞれの高校での大学進学への手助けとしてPTAが行っている事についての報告等を最初に行っていました。大学入学が子供たちの最終目標ではなくその先の子供たちの将来像についての話が出てきたからは、参加者各々の子供に対する考え方や学校での子供たちの将来の職業への選択幅を広げるための卒業生の後援会などの話も出てきて活発な意見が出てきました。私は音威子府高校が美術と工芸を行う事を目的として全国から学生が集まる特殊な高校である背景の中で、自然の中で美術、工芸に励む子供たちの姿と、3年間の寮生活を送る中での子供たちの大人への成長の素晴らしさを話させていただきました。音威子府高校の素晴らしさを少しは伝えられたと思っています。とても有意義な分科会となった事と思います。

最後に3日間お世話になった伊藤校長先生にこの場をお借りしてお礼申し上げますとともに、このような機会をいただいた事に深く感謝いたします。PTAの残りの期間も頑張っていく事を決意いたしました。今回の報告とさせていただきます。



第66回北海道高等学校PTA連合会大会（函館大会）

主催：北海道高等学校PTA連合会

共催：一般社団法人全国高等学校PTA連合会

日時：平成28年6月11日（土）・12日（日）

会場：函館国際ホテル、遺愛女子高等学校、市立函館高等学校

行事予定

- 8月 -----
- 16日（火）帰寮日
 - 20日（土）～21日（日）4町村合同広域連携事業
場所：札幌駅前通地下広場
（チ・カ・ホ：北3条交差点広場〔西〕）
 - 23日（火）漢字検定
 - 24日（水）～26日（金）高文連支部大会（名寄）
- 9月 -----
- 1日（木）～5日（月）前期期末考査
 - 8日（木）寮避難訓練
 - 10日（土）1学年寮生レクリエーション
駿台ベネッセマーク模試（3年）
 - 14日（水）～16日（金）デザインスクール（2年）
 - 21日（水）職業ガイダンス（1・2年生）
 - 23日（金）生徒会役員選挙
 - 26日（月）強歩記録会
 - 27日（火）～10月8日（土）国際理解教育 派遣
 - 30日（金）帰省日
- 10月 -----
- 10日（月）帰寮日



1年宿泊研修 村民運動会

教務部より

教務部長 吉田 香織

4月、1年生の英語の授業では最初「中学校のおさらい」を実施し、中学の学習事項の定着度を見ます。これは中学校での学習内容がどのくらい身につけているかを知るために行っています。

何かを学ぶ際に、「基礎・基本」は大切です。これは間違いありません。「基礎」とは建築用語で、辞書を引くと「建築物の重量を支え、安定させるために設ける建物の最下部の構造。地形（じぎょう）・礎石・土台など」と書いてあります。

建物を築く際、基礎は絶対に欠かす事が出来ません。基礎のないところに何を載せても、すぐに崩れてしまいます。造ろうとする建築物が大きいほど、基礎も大きくてしっかりさせなければなりません。どんなに壮麗な建物も、しっかりした基礎がなければ長くは持たないでしょう。

勉強もまた然りです。基礎・基本と言われることを疎かにすると、その上に何を積み上げてみてもすぐに崩れてしまいます。学びたいことが大きいほど、深いほど、基礎も、広く、強固でなければならないでしょう。

「基礎的・基本的なこと＝簡単、応用・発展＝難しい」と思いがちですが、これは間違いです。基礎・基本が身につくまでには、長い時間が必要であったり、辛抱強く練習を繰り返さなければならないことも多々あります。

また、教える側の自分自身も、生徒がつまづいている時に、その子は何が見に付いていないのか、つまり基礎のどこが欠けているのかを見極め、適切に補強するためのサポートを求められます。これもまた容易ではないと日々感じています。

生徒の皆さんには、楽しい夏休みを過ごす中にもぜひ、4月から学んだことをふり振り返り、基礎・基本を固める時間も作ってほしいと思います。



インターンシップ
千見寺商店

インターンシップ
天塩川温泉



インターンシップ
音威子府郵便局

インターンシップ
音威子府村幼児センター



木の手づくり展
(旭川)



植樹祭



森林探訪



学校間連携事業
(交通安全キーホルダー配布)

生徒指導部より

『挑戦』

生徒指導部長 棚橋 栄治

4年前、25年ぶりにロードバイク（自転車）を購入。理由は単純。新しい自転車なら音威子府から自宅のある網走まで250kmを走破できると思っていた。夏休みのある日、朝5時に音威子府を出発し、休憩を数回とりペダルを10時間回し、夕方6時に自宅に到着。とてつもなく疲れ、夕食後には歩くことさえままならず、すぐに床に倒れ込んだ。当然トレーニング不足を反省した。

翌年の夏休みには、前年の一日250kmを上回る一日320kmを目標にし、音威子府～赤井川間を走破する計画を立て、トレーニングを積んだ。結果的に100kmごとに2回の休憩と、その後3回の休憩をとり、12時間ペダルを回し、無事に走破。その日は思った以上に元気に過ごすことができたが、疲労は数日後に突然襲い掛かってきた。その時に思ったこと。もっときちんとトレーニングを積んで、数年後にもう一度同じ挑戦をしようということ。そして一昨年、昨年と、「一人ツール・ド・北海道」と銘打って、数日をかけて道内のあちこちを500～700km走破してきた。今年はその「一人ツール・ド・北海道」に向けて、例年以上に自転車のトレーニングに取り組んできたが、二度目の一日320kmへの挑戦を今年にするべきか来年にするべきか、その決断は限られた時間の中で、挑戦に際しての健康と安全に対する自信がもてるまでのトレーニングができるか否かにかかっている。勿論挑戦するからには前回の記録を上回ることを目標にしたい。その為に努力を積み重ねたい。その為には諦めたり、切り捨てたりしなければならないこと、逆に無理をしてでも取り組まなくてはならないことがある。目標に突き進むということはそういうこと。挑戦とはそういうもの。

進路指導部より

進路指導部長 碓矢 真由

今年も三者面談の季節がやってきました。3年生は既に入試のエントリーが始まっており、求人票も公開となって、毎日何かしらの「進路イベント」がある期間に突入しました。提出書類も、誤字脱字がないか、返信封筒のマナーは守れているか、書類全てがキレイな状態で揃っているかなど、外面的要素に加えて、中身はしっかり書けているか、たくさん考えられた末の言葉か・・・と、チェックする箇所はいくらでも見つかります。細かい訂正や微調整を繰り返しながら、慎重に確認を進めていきます。

ここで1・2年生の皆さんに考えて欲しい事は、日頃どれだけ物事に対して、興味を持って、丁寧に、真摯に、かつ考えて「きちんとやる」事を怠らずやっているかという事。

焦って外面を整えても、中身の無いものはすぐに見抜かれてしまいます。逆に中身が満点でも、ちょっとした失敗や詰めの甘さで勝手に印象を決めつけられてしまうものです。

この「きちんと」はやはり習慣で、日頃から全てを中途半端に、何となくがしろにしていると肝心な時にも悪い癖が出て、最終的には「きちんと」やれない事が「一所懸命がんばる」事の足を引っ張ります。そう考えると、普段の生活からもまだまだ気を付けるべき点はあるそうです。夏休み明け、気を引き締めてより一層頑張りましょう！



新入寮生歓迎会



交通安全・薬物乱用防止
・防犯講座



匠号バスツアー



寮レク(2年)

【編集後記】

木の手づくり展(旭川)は、旭川駅前のデザインギャラリーでの展示は2年目になりますが、291名の来場者が来られました。展示において、お手伝いに来ていただいた保護者の皆様方に感謝致します。